

あいち通信

第四十六号 平成二十五年六月
日本会議 愛知県本部 事務局
052-1-7631-4678

報告 日本会議愛知・春日井支部 第三回講演会を開催

―(講師) ノンフィクション作家・河添恵子先生 (演題) 「日本が日本であるために
中国の脅威とどう向き合うか」― (日時) 四月十三日(土) 午後二時~四時 (会
場) JR中央線勝川駅前「ホテルプラザ勝川」 (主催) 日本会議愛知・春日井支部

今回の講演会は、昨年十二月に開催を決定すると共に、「日本の息吹」へは、2月号にて簡単に告知をし、3月号と4月号ではチラシの形で広報を行い、また、ネット上での様々な告知・掲示板への書込みを実施しました。また、春日井市・小牧市・名古屋守山区など会場近辺在住の日本会議入会者へは別途で封書を郵送する方法も採用して、参加呼びかけを行いました。河添先生の知名度も相まって、百名を越す多くのご参加をいただきました。これは、春日井支部が昨年四月に発足したばかりで、わずか一年足らずの春日井支部のメンバー各員にとりましては大変嬉しかったです。特に、日本会議の会員ではない、未入会の方が約二十%程度もお越し下さった事は、私共の企画への理解をいただいた事と、今後の会員拡大につながる行事となりました。

おりしも、中国の政権が胡錦濤主席から習近平主席に交代。また、PM二・五とか北京の街が霞むほどに空気が汚染されている状況など、日本の風上に位置する中国の様子が慌ただしくなってきた時期に、本講演会が実施されましたことは、講演内容を更に有意義なものとするところでありました。

日本のマスコミの情報操作があるせいか、中国の国内事情が急変したかの如くに連日、新聞・テレビで取り上げられていく状況が見られます。しかし、急に発生したもので無く、中国の中枢が、わざと日本の意識を引いて、あわよくば日本から更なるODAの増加、技術援助という形を引き出すための裏工作が有る事が、鋭い視線を持つ河添先生によって暴かれることとなり、その説明にうなずく参加者も多くおられました。今も昔も中国は情報が漏れることを警戒しておりますが、国内でのデモなどの増加、民衆がネット社会の影響を受けて組織に対抗する場面が増加してきており、河添先生も、中国の内乱化と分裂を説明しておりましたが、今後しばらくして中国が大きく変化する事は、誰の目にも明らかなる様相を示しております。また、日本そのものも大きく変化を遂げていくかも知れません。

春日井支部としても、一年後に再度の開催を目指して頑張ろうと思っております。
(日本会議愛知 春日井支部 支部長 後藤宗夫・記)



報告 日本女性の会愛知 教育講演会を開催

日本女性の会愛知は、日本協議会・日本青年協議会と共催で、去る四月二十一日(日)名古屋駅前「ウインク愛知」にて、エドワーズ博美先生をお招きして教育講演会「少子化を考える(男女共同参画の弊害と結婚のメリット)」を約五十名規模で開催しました。山口県出身のエドワーズ先生の地元では、これまでも安倍総理を含め、歴代総理大臣を八人も輩出した所ですので。少子化問題は、女性の晩婚化や若い人の未婚率の高さも少子化につながる原因の一つですが、最大の原因は男女共同参画によって、もたらされた弊害だとエドワーズ先生はのべられました。



以下、講演会の内容を記述致します。この男女共同参画は、一九九九年に日本の左翼によって作成された綱領が国連で決議されたもので、国連の実態は非常に左翼的な一面があるそうです。児童権利条約なるものも百名以上の左翼の団体が国連委員会に働きかけ、日本ではさも人権侵害が行われているかのごとく働きかけ、国連の力を借りて日本政府に訴え、男女共同参画においては、男女は平等でなければならぬとし、男らしさ、女らしさを排除し、伝統的基本家族である専業主婦を無能呼ばわりし、多くの母親が子供を塾や保育園に預けて仕事に従事することを選択し、その為、待機児童が増えているのが現状です。しかし、このことが伝統的基本家族制度の崩壊につながる。男女平等を推奨することで男性の弱体化が確実に進んでいます。又、事実婚(同棲)を認めているため、事実婚では子育てにおいて子供が不安定になるという調査結果が出ています。この事からも男女共同参画がもたらす弊害が如何に多いかがわかります。

糸ともの一層の努力の必要性を痛感致しました。日本女性の会は、「家族の絆を大切に、伝統的家族制度を守ろう」をスローガンに掲げ、今後とも日々活動を続けてまいります。
(日本会議 日本女性の会愛知 会長 古市富子・記)

●愛知県護国神社清掃奉仕予定

次回は六月二日午前七時開始、八時終了。七月七日、八月四日、を予定しております。尚、六月から八月までの三ヶ月は午前七時開始です。軍手を必ずご持参下さい。また、小雨なら社屋の木枠拭き掃除します。大雨は中止になりますが、疑わしい天気の場合には、現場責任者の服部宛、お電話下さい。090-64661502

●「日本の息吹」を引き続き継続して下さいお願いします。

●お詫言 前号・五月号の記事ですが、該当行事開催日から、原稿締切日まで日がなかつたためか、文字変換ミス、誤字脱字等、二十数か所あることが判明しました。前後の関係から内容的には、判断したためのはと、判断し、詳細を掲載することは敢えていたしません。読みづらかったことにつきまして、心よりお詫言申し上げます。今後、このようなことのないよう心がけてまいります。